

～笑顔とやさしさをつなげていく北方の子～



# 北方だより

横浜市中区諏訪町29

TEL 045-621-2966

<https://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kitagata/>

## よさが輝く関わり

校長 伊藤 洋子

10月24日（火）、個別支援学級の中区合同宿泊学習から帰校しました。ちょうど1・2年生の下校時刻にあたり、私がピロティに立っていると、2年生の子どもたちが寄ってきました。

「校長先生、じゃんけんしよう。」

じゃんけんをしながら、「どうして急にじゃんけんをしたいと言ってくるのだろう。」と思いましたが、すぐに気付きました。「金曜日に『なかよしポイントラリー』があったからだ。」と。

10月20日（金）に、「北方なかよしポイントラリー」を実施しました。このポイントラリーは、異学年での活動「なかよし活動」として位置付けている活動です。学校だより7月号でお伝えしたとおり、今年度、方法・内容を再検討し、全校遠足から校内ポイントラリーに変更して実施しました。

グループは、18グループあります。どのグループも、1年生から6年生までの子どもたちで構成しています。1組グループの中に、1-1グループ、2-1グループ、3-1グループ、4-1グループ、5-1グループ、6-1グループの六つのグループがあります。1組グループ、2組グループ、3組グループがあるので、全部で18のグループがあります。それぞれのグループは、三つの活動に取り組みました。一つは、グループのメンバーと、教室でゲームを楽しむ活動。もう一つは、グループのメンバーと、特別教室で、他のグループがゲームを楽しめるように“お店屋さん”を運営する活動。更にもう一つは、グループのメンバーと、他のグループが運営する“お店屋さん”をまわりながらポイントラリーに取り組み活動。それぞれの活動に45分間ずつ取り組めるよう、時間を三つのまとまりに区切ってローテーションを組んで実施しました。

各グループが運営する特別教室での“お店屋さん”に加えて、私の“歩くお店屋さん「じゃんけん」”がありました。校舎内を歩いていると、グループが押し寄せてきました。私が「3人とじゃんけん。自分たちで決めてね。」と言うと、「やりたい。」と、3人以上の子どもが手を挙げるグループがほとんどでした。どのように決めるか様子を見てみると、6年生が、他学年に同意を求めながら、「1、2年生にしよう。」と決めたり、「やりたい人、みんなでじゃんけん。」と決めたり、「自分とじゃんけんして勝った人にしよう。」と決めたりしていました。初めはじゃんけんをしたいと思っていた子どもが不安になってしり込みしていると、ほかの学年の子どもが「じゃんけんする。」と、臨機応変に変わっていました。じゃんけんに負けてがっかりしている子どもに、「大丈夫、大丈夫。」と励ましている6年生もいました。6年生のリーダーシップと心づかいを心地よく感じるとともに、この6年生の姿を導き出しているのは下学年の子どもたちとの関わりであること、この6年生の姿を見て下学年の子どもたちが自分の未来の姿を思い描いていることを、確信しました。

児童会が考えた工夫も、なかよしポイントラリーを盛り上げました。9月の代表委員会で、児童会スローガン「みんなで協力 元気にあいさつ かがやく笑顔とやさしさを 未来へつなげていく北方小」を実現するために、ポイントラリーでの笑顔と協力を増やすための工夫を話し合いました。各グループが、ポイントラリーでのゲームに取り組んだ後にシールをもらい、そのシールを決められた大きな台紙に貼ると、一つの大きな絵が完成するという、運営委員会が提案した工夫です。話し合いを通して、スローガン実現への意識やグループにとどまらず全校の仲を深めることへの意識を高めていました。実際に、ポイントラリーに取り組みながらシールが貼られていく絵を見たり、おわりの会で完成した絵を見たりすることで、笑顔とやさしさを自らつなげていくことができた自分自身の取組に充実感を感じることができたようです。

「他と関わるからこそ自他のよさが分かる。」一人ひとりのよさが輝く豊かな関わりをつくる大切さを心から感じた、「北方なかよしポイントラリー」でした。

